

## バス交通対策事業

- ・仁川～高司～安倉～中山路線について、減便以降の増便に向けた取組の経緯

都市安全部 道路政策課

## ◎取組の経緯

平成 17 年度 ～平成 19 年度	<p>仁川駅前～高司～安倉～市立病院～JR 中山寺の路線で試験運行を実施</p> <p>&lt;平成 19 年度&gt;</p> <p>便数 : 平日 24 便、土日 8 便</p> <p>利用者数 : 7.5 人/便利用(収支率 5 割程度)</p> <p>→採算ラインを下回ったため、本格運行には至らなかった。</p> <p>平成 20 年度以降は、仁川循環線の車庫からの往復時 2 往復(市立病院は経由しない)の運行となっている。</p>
平成 23 年 5 月	<p>宝塚市地域公共交通総合連携計画において、高司地区を第一段階に位置付け。</p>
令和元年 6 月～7 月	<p>6 月 : 高司小学校区まちづくり協議会に説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第一段階の位置づけの説明と、公共交通についての意見の聞き取りを行った。</li> </ul> <p>7 月 : 地区の健康体操参加の高齢者に説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移動手段の必要性について意見交換を行った。</li> </ul> <p>&lt;地元意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院、駅、買い物に行けるバスを運行してほしい。</li> <li>・現在、市立病院に行くのに 2 回乗り換えが必要で不便である。</li> <li>・現状の運行のままでは地域の人間はほとんど利用しない。改善のために自治会等でアンケートを取り、ニーズを把握すべき。</li> <li>・せめて 1 時間に 1 本のバスがあれば便利。</li> <li>・行きたい場所を回ってくれるようなバスがほしい。</li> </ul>

<p>11月～令和2年3月</p>	<p>1 1月：第1回高司地区公共交通会議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、高司地区公共交通会議を開催することについて合意。</li> <li>・市から自治会を通じてアンケートを実施し、地区の移動ニーズを把握することについて合意</li> </ul> <p>1 2月～2月：アンケート配布・回収</p> <p>2月～3月：アンケート結果とりまとめ</p> <p>&lt;アンケート結果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・回答年齢層は5割以上が60歳以上の年代</li> <li>・70歳以上の年代の方の63%が自家用車による移動手段を持たない</li> <li>・最も利用する駅は仁川駅と小林駅であった。また希望する行先は仁川駅が多く、利用目的は通勤、通院、買い物の割合が同等程度</li> <li>・以上より60歳以上の生活を維持する必要があるとした</li> </ul> <p>3月：アンケートの結果を報告するとともに、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し会議を当面見送ることを高司地区公共交通会議あてに送付</p>
<p>令和2年度～</p>	<p>変化する社会情勢を踏まえ、阪急バスと市内補助路線について、市補助金および運行路線や運行便数の密度などの協議を継続的に実施</p>

◎変化する社会情勢

- ・運転士確保が全国的な課題となっている。
- ・運転士の人件費が上昇し、運行経費が高騰している。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により移動形態が変わり、収益が大幅に悪化している。
- ・これらを踏まえ、西宮や川西など周辺市域において路線の見直しが進められている。

◎今後の予定

令和4年度策定予定の宝塚市地域公共交通計画と合わせて当該路線の在り方を検討していく。